ちょっとお茶にしませんか

鉄好人海外行

第5話

フライトさまざま
Attention Please

山本誠志
Masashi Yamamoto
日科情報株式会社　（元）住友金属工業（株）

■待ち構えていたかのように後部席で拍手が起こりました。飛行機の車輪が滑走路に接地したのです。拍手はやはり、どこかの国のインターナショナルスクールの生徒達でした。かれらの団体旅行とよくであいます。どのフライトでも着陸のときに拍手をします。誰に拍手しているのでしょうか。機長、自分達、あるいは神様に？。かれらも個人旅行のときはしません。学校の慣習なのでしょうか。いいじゃないですか。感謝の気持ちの表現かも知れません。

■おしゃべりをする人、アルコールを飲む人もなく、行儀の良いことこの上ない団体と乗り合わせたことがありました。恐る恐る尋ねてみました。「どういうご旅行ですか？」と。「巡礼に行く途中です。公共の場では、おしゃべりを慎むよう日頃から教えをうけています」とのことでした。窮屈そうな感じではなく、自然体の感じをうけました。

■こりゃ、どうなっているんだというフライトに乗り合わせたこともあります。持込み手荷物を入れる座席上の棚が全て占拠されており、後で来た多くの人が自分の手荷物の納めどころに途方にくれたのです。クルーの人が預かって収まりました。収納棚を占拠したのは、真っ先に搭乗した団体でした。まず搭乗手続きのときに目一杯預け、さらに、持込み手荷物として目二杯持ち込んだそうです。そこら中の棚が占拠されるはずです。そういえば、搭乗時間のかなり前から列び、我先にとかけ込むのを思い出しました。搭乗直前に持込み手荷物の追加料金をとられている人もいました。

いろんな人に、いろんな状況があるのでしょうね。その人達には当たり前のことなのでしょう。こんな経験をできるのも「海外行」のおもしろいところです。

■パリからリスボンへのフライト。途中でトイレにたちました。クルーの人が使用中とのことで、待たされました。用をたして出てきたとき、操縦室をのぞいてみないかとクルーに誘われました。わたしには始めての経験です。喜んでついていきました。ちょうど、フランスとスペインの国境の上だと教えてくれました。赤道と一緒で「線」は見当たりませんでした。当たり前のことですが、なぜかなにかを期待しませんか。操縦計器の説明もしてくれました。びっくりしたことがあります。わたしのことを「ミスターヤマモト」と呼ぶのです。搭乗者名簿で調べたのでしょうか。そのフライトには、東洋人／とりわけ日本人はわたし一人だったようです。機体は中型機で、中央の通路を通して操縦室への出入りが確認できます。座席に戻ると、隣席の酔いどれムッシュが俺も操縦室を見たいと言い出しました。クルーは一言「ミスターヤマモトは酒を飲んでないからOK。あなたは酔っぱらっているからダメだ」と。これで一件落着。おもしろい。

■今回のフライトではセニョールが隣の席に。実に陽気なもので、ドリンクサービスが始まるや、さっそくオーダー。隣のわたしにも勧めるが「疲れているから眠らしてくれ」と、しばし微睡む。そのセニョール、追加オーダーのたびに「お前もどうだ？」と起こしてくれる。たぶん飲み相手が欲しかったのでしょう。こんな状況にも眠りこけたわたしは余程疲れていたのでしょうね。着陸サインで起こされたときも、まだ飲んでいました。相当のドリンカーなのでしょう。付きあわなくてよかったようです。

■北極回りの夜間飛行で、トイレにたちました。窓側の席の人が窓に顔をくっつけて外をみています。真夜中で外は何も見えないはずなのに。前も後ろも、同じ姿勢なのです。用を済ませ、外をみてびっくりしました。ちょうど、北極海の上を飛んでおり、下には流氷が見えているのでした。その青と白のコントラストはいまも覚えています。知る人ぞ見るという感じでみんな黙ってみていました。このとき、トイレにたたなかったら、この感激を味わうことはなかったでしょう。特別なフライトサービスをうけたような気がしました。団体客が乗り合わせておれば、大騒ぎになっていたかもしれませんね。

■まいったな、こんなデカイ人の隣なんて。こちらは窓側の席で完全に圧迫されてフライトに耐えなければならないのかと憂鬱になる。さりとて、空席はないし。よくお尻が席に収まったというくらいで、肩・肘、膝は隣まではみ出ています。このときは、短時間のフライトでもあり、耐えることができました。でも、考えさせられました。おとなしい人、我慢強い人が、XX症候群になるのはこんな状況ではないのかと。意を決してときおり席をたって、機内をブラブラすることが必要でしょうね。

したい経験、したくない経験を楽しみましょう。
「Attention, Please.」の言葉とおりに！